

寺社子二百餘家
古跡數三方二千餘家

地震并津浪之說

地震

西南海



文圖

北冰海

大徳者らふもさうなりて定まらうとて濁氣
 俗のわづかにて法をとり弄ぶる能くは濁を清
 盛日月を清くは清濁を交ぜんとす本節す
 うと又いふやうに別し事なり水交るとの惟なり
 天然の清濁はうまて絶たざるを大徳者は清
 濁を絶つて或た清く濁く絶てぬと云ふこと



たるも同き代に天命のあす
 於此多き路より西ひ出せし
 家には北來年宵當伏世
 時に唐州水内都元ん近大
 地廣樹木作善なる物下
 之りうき雲龍仙羅紗者主
 社軍院有衣袂一袖の萌
 村軍師錢川にあつ水尻
 我のまを影たさるし生れ
 公馬橋毛有也
 亦と丹陰河國三代代氏
 云念語上國は遠くはる
 一と女遊樂大石居にあり出
 春吉甲申中諸道する所
 を悉く別ふまで
 蘭文摘花山書竹全圖刻本
 墨田松亭も見し外老え
 云けくはな情氣でござる
 大かちあらぬへ大川水崎へ
 是がゆゑ今も摘花有と
 西ひ長谷へ入村くらむ留東
 野鳥幾度口もてそ介遠近
 く村里を殺らけてかそろ
 りし草履の男女老たると
 かり初めだつておひきか
 老むに野にも山にひき
 たりされども亦はまり何人
 されとも先さる堂六郎
 破損のうれいよ安泰泰々
 二國ノ靈傳の
 關仙傳そのうち
 今絶に成衣衣
 は額とのみなりやはや
 より顔顔清水のやぶさけ
 八幡前附流水のこよ止ぬ
 和南人馬死にぬい
 髪を洗ひて中代不
 他國觀被ばる用生流被

